

中国人留学生からみた日本語のオノマトペ及び
その学習についての研究 ——日本語教育の視点から——

教科・領域教育学専攻
言語系(国語)コース
M09121A
魏 惜麗

I. 研究の目的と意義

本研究の目的は以下の2点である。

(1) 中国人日本語学習者のオノマトペの学習経験と学習ニーズ及び学習態度を明らかにすること。

(2) (1)の結果を踏まえ、大学における日本語教育の「オノマトペ」の扱いに対する適切な教育的示唆を行うこと。

日本語の語彙の重要な部分であるオノマトペは、日本語学習の内容の一部に含まれており、オノマトペ及びその学習を正しく捉えることは、教育の立場からみて有意義である。また、学習者は、自分にとって必要なオノマトペを適切に習得すれば、日本語での理解力と表現力の向上につながり、実際の日本語でのコミュニケーションが豊かになることが期待できる。さらに、教師として、学習者のオノマトペ学習の経験・ニーズ・態度を詳しく把握できれば、オノマトペを指導する際に有効な教材や教授法を決定する道しるべとすることができる。今まで、教育の視点から学習者のオノマトペ学習の経験・実態・ニーズについて深く考察する研究はほとんどなされていないため、本研究は有意義なものだと考える。

II. 論文の構成

第1章 研究の目的と意義

1.1 研究の背景と動機

1.2 研究の目的と意義

1.2.1 目的

1.2.2 意義

1.3 先行研究

1.4 研究方法

1.4.2 質的研究

1.4.2 半構造化インタビュー

1.4.3 インタビューの実施について

第2章 調査と分析

2.1 調査の概要

2.1.1 調査の目的

2.1.2 調査の手順

2.1.3 協力者について

2.1.4 インタビューの使用言語

2.1.5 インタビュー・ガイド

2.2 データの処理

2.3 調査の結果と分析

2.3.1 留学前の状況

2.3.2 留学中の状況

2.3.3 オノマトペを難しいと思う理由

2.3.4 オノマトペが印象深くなったきっかけ

第3章 考察

3.1 留学前・留学中の比較

3.1.1 オノマトペの難易度

3.1.2 オノマトペに対する「難しい」以外のイメージ

3.1.3 オノマトペとの接触状況

- 3.1.4 オノマトペの使用状況
- 3.1.5 オノマトペの学習意欲
- 3.2 オノマトペの学習経験と学習状況など
 - 3.2.1 オノマトペの学習方法
 - 3.2.2 オノマトペの学習活動
 - 3.2.3 オノマトペの学習指導に対する評価
 - 3.2.4 オノマトペの習得
 - 3.2.5 オノマトペの学習状況
 - 3.2.6 オノマトペの学習について感じている問題点
- 3.3 日本語教育への示唆
- 3.4 まとめと今後の課題

III. 論文の概要

第 1 章において、研究の背景と動機、目的と意義を明記し、先行研究を取り上げ、中国人留学生からみた日本語のオノマトペ及びその学習についての研究を日本語教育の視点から捉える必要性について述べる。また、本研究では質的研究を行なうこととし、具体的には半構造化インタビューを用いてデータを収集し、分析することを説明する。

第 2 章では、調査の概要とデータの処理方法について述べた後に、調査の結果を「留学前」と「留学後」に分けてまとめ、分析する。具体的には、①協力者のオノマトペに対する考え方、②オノマトペの学習状況及びそれに関する考え方、③オノマトペとの接触状況、④オノマトペの使用状況、⑤オノマトペを難しいと思う理由、⑥オノマトペが印象深くなったきっかけという 6 項目について展開し、説明を行う。

第 3 章では、留学前後の変化に焦点をあて、以下の 5 項目について詳しく分析する。①オノマトペの難易度、②オノマトペに対する「難しい」以外のイメージ、③オノマトペとの接触状況、④オノ

マトペの使用状況、⑤オノマトペの学習意欲。また、協力者のオノマトペの学習方法や学習活動などを述べ、オノマトペについて感じている問題点についても分析を行う。これらを踏まえ、大学における日本語教育の「オノマトペ」の扱いに対して、本研究の調査結果から見出せることと今後の課題について述べる。

IV. 今後の課題

今回の研究ではインタビュー・データに基づき、先行研究の知見と筆者個人の留学経験を踏まえて分析を行なってきた。小範囲ではあるが、研究目的をある程度果たしたと考える。しかし、経験が浅いため、インタビュー調査の実施にはまだ改善すべき点がたくさんあり、また日本語教育の視点からの結果の考察もまだ不十分である。これらを今後の課題として考え続けていきたい。

主任指導教員 田中 雅和

指導教員 寺尾 裕子